

教育現場の声が、新しい学びをつくる

株式会社アップが FLENS School Manager と描く教育プラットフォームの未来



スクールマネージャー導入で変わったコミュニケーション

2023年、保護者・生徒とのコミュニケーションツールとして FLENS School Manager（以下、スクールマネージャー）を導入した株式会社アップ（小南達男代表取締役 兵庫県西宮市）。同社は関西を中心に幼児から社会人までを対象にした教育事業を展開しており、当時、保護者への連絡は社内で独自開発したWebシステムを使用していた。家庭との連絡を効率化する先進的な取り組みだったが、お知らせの確認にはブラウザでログインする必要があったことや、事業部ごとに異なる仕様となっていたことから、運用面の課題を抱えていた。

全事業部で運用を統一できることに加え、同社・保護者双方にとって使いやすく、将来の拡張性も見据えて選ばれたのがスクールマネージャーだ。事業部間で約1年半に及ぶ調整を経て導入されたスクールマネージャーは、現在どのような成果を生み出しているのか。そして今、新たな取り組みとして試験運用を始めた機能とは何か。導入から3年間の歩みと、その先に見据える教育の未来について話を伺った。



株式会社アップ
変革推進本部 研伸館 部長
今津 宗樹 氏



株式会社アップ
変革推進本部 研伸館 次長
研伸館 教務副リーダー 池吉 琢磨 氏

私たちがスクールマネージャーを導入した大きな理由の一つは、社内に分散していたコミュニケーション基盤を統一したかったからです。導入前にも、自社で開発したマイページシステム

ムはありました。ただ、連絡事項を確認するために、その都度ブラウザからログインする必要があり、利用する側にとって必ずしも手軽なものではありませんでした。事業部ごとに異なる仕様となっていたことから、複数の講座を受講する生徒は複数ページを使い分けなければならないという問題もありました。新しいシステムを一から開発する方法もありましたが、将来的な拡張性や運用面を考え、スクールマネージャーを導入する方向に進みました。これまでバラバラに運用してきたこともあり、全社で同じシステムを運用することは簡単ではありませんでした。各事業部の要望と使う側の利便性との兼ね合いなど、調整には約1年半をかけました。苦労したからこそ、導入後の効果は非常に大きかったと感じています。導入後、まず大きく変わったのは、各事業部で分かれていたマイページが統合され、生徒や保護者が一つのプラットフォームから必要な情報を確認できるようになったことです。一斉配信や個別メッセージにより、重要なお知らせや学習アドバイスも適切なタイミングで確実に届けられるようになりました。既読状況も確認できるため、「本当に伝わったのか」が把握できるようになり、連絡の確実性は大きく向上しています。紙の配布物や電話による連絡業務も大幅に削減され、出欠確認や面談予約の集計も効率化さ

れました。問い合わせや確認のハードルも下がり、進級時の情報引き継ぎもスムーズで保護者、生徒の負担軽減にもつながりました。こうして生まれた時間を、生徒への指導や、より重要な業務に充てられるようになったことも、大きな成果の一つです。中でも特に実感しているのは、保護者との距離が近くなったことです。以前は、生徒を介して伝えていた情報も少なくありませんでしたが、スクールマネージャーの導入によって保護者へ直接、確実に情報を届けられるようになりました。日々のやり取りを積み重ねる中で、保護者との信頼関係も以前より築きやすくなったと感じています。

現場に根付いたスクールマネージャー活用

スクールマネージャーは単なる連絡手段ではなく、日々の指導を支えるツールになっています。例えば、高校3年生の最難関大学を目指すクラスでは、授業前の予習答案提出にも活用しています。生徒が答案を写真で撮影し、データを添付して送信することで、私は授業前に内容を確認できます。生徒がどこでつまづいているのかを事前に把握したうえで授業に入れるため、指導の質が向上しています。

【研高より】第2回学力診断テストについて

2026年度 第2回 学力診断テスト

高1・高2 校内生対象 (9月期・10月期)

11月期からの受講クラスを判定する大切な試験です

研伸館 2026/06/23 15:00 【研伸館より】2026年度夏期講習 受講講座に関するご案内

研伸館 2026/06/22 18:00 6/28(日)実施 定期考査前勉強会について

研伸館 2026/06/22 16:00 【研伸館より】「強者の戦略2026」発刊！

研伸館 2026/06/21 13:30 【研高より】明日から7月期開始です

7月期平常授業 6月22日(月)スタート

ぼん単子チェック：0051-0075

0051~0075

(1)次のうちから正しいもの1つ選べ agree with A

Aを拒絶する Aを導く Aを発見する Aに同意する

(2)次のうちから正しいもの1つ選べ master A

Aを習得する Aを推測する Aを調べる Aに弟子入りする

予約

受付中 予約済み 終了

個人面談のお知らせ

受付期間2026/08/09まで

8月の個人面談のお知らせです。ご希望の日程を1枠選択してください。

通字アドバイザー 欠席する

		2026年08月						
		3 (月)	4 (火)	5 (水)	6 (木)	7 (金)	8 (土)	9 (日)
13:00	×	×	○	×	×	×	×	×
13:30	×	×	○	×	×	×	×	×
14:00	×	×	○	×	×	×	×	×
14:30	×	×	○	×	×	×	×	×
15:00	×	×	○	×	×	×	×	×
15:30	×	×	×	×	×	×	×	×
16:00	×	×	○	×	×	×	×	×
16:30	×	×	○	×	×	×	×	×

スクールマネージャーの可能性を広げる小テスト機能

生徒や保護者とのメッセージは校舎単位で管理していることも、私たちの運用上の特徴です。利用時間を勤務時間内に設定しているため、一人の先生だけが対応するのではなく、校舎スタッフ全員が状況を把握できるようにしています。特定の担当者だけではなく、校舎全体で生徒一人ひとりを見守る。そうした運用が自然にできるようになりました。一方で、便利になったからこそ新しい課題も見えてきます。例えば講習期間中は、一日中授業が続くため、質問のメッセージが届いてもすぐに返信できない場合があります。生徒や保護者の方からすると「すぐ返事が欲しい」と感じられることもあると思います。運用を続ける中で、私たち自身の対応を見直すきっかけにもなっています。

そして現在、私たちは新たな取り組みとして、FLENSと共同で「ぼん単子」を出てくる英単語（以下、ぼん単）を活用した英単語小テスト機能の開発を進めています。英語学習において、英単語の習得は土台となる重要な要素です。「覚えなさい」と伝えるだけでは定着しません。そこで、通学時間などの隙間時間に取り組みめる環境が必要だと考えました。

ぼん単は、大学入試を分析し、本当に必要な英単語を厳選した弊社オリジナルの英単語帳で高校英語に必要な2600語が収録されています。時代に合わせて3回の改訂を重ねてきましたが、紙教材では、最新の入試動向を迅速に反映することには限界があります。そこで当初は英単語専用アプリも検討しました。ただ、私たちは塾に関する情報をできるだけスクー

生徒が「やろう」と思った瞬間に学べる環境へ

私たちが大切にしているのは、生徒が学びを継続できる環境を作ることです。英単語学習は、必ずしも生徒が「やりたい」と思っているものではないかもしれません。だからこそ、「やらなければ」と思った瞬間に、すぐ始められる環境が必要だと考えています。学ぶ必要性を伝え、生徒自身が「やろう」と思った瞬間に取り組める環境を用意することも、私たち教師の役目です。今後は、この小テスト機能をさらに発展させ、スクールマネージャーを導入され

ている他の塾様にも活用いただける形を目指しています。連絡のためのツールから、生徒の学びを支えるプラットフォームへ。FLENSとは、単なるベンダーとクライアントという関係を超えた「教育のパートナー」です。これからも継続的な伴走と新たな提案をいただきながら、ともに教育の質向上につながる取り組みを進めていきたいと思っています。

